

豊臣秀吉によって築かれ、その後、徳川幕府が再建をした「大坂城」。
江戸幕府初代将軍・徳川家康を神格化し祀っている「日光東照宮」。
この2つの建造物は、江戸時代初期に藤堂高虎を普請奉行として大規模な造り替え、
造営が行われた。高虎を影で支えていた知識・経験豊富な技術者や大工がいた。

偉人伝

the life of a great person

土木
建築

VOL.3

建築

甲良 宗廣

Munekio kora

「一五七四年～一六四六年」

一六八万人の職人が
集まった「日光東照宮」
大造替の大棟梁



江戸時代初期の神社建築に大きな影響を残した匠

甲良宗廣は、1574（天正2）年、現在の滋賀県犬上郡甲良町に生まれた。祖父（三郎左衛門尉光廣）、父（三郎左衛門尉氏廣）は、名高き建仁寺流堂宮大工で匠家であった。宗廣は彫刻にも秀でており、22歳で近衛閑白邸門の扉彫刻を手がける。同年、京都吉田神社の造営で棟梁をつとめ、この2つの功績により豊後守（ぶんごのかみ）を賜った。藤堂高虎が造営した日光東照宮を、1636（寛永13）年、徳川3代将軍家光が「寛永の大造替」により造り替えをした際、宗廣は大棟梁（責任者）をつとめ、1年5カ月で工事を完成させた。陽明門など現在の社殿群のほとんどが、この工事によるものである。なかでも本殿と拝殿は「石の間造」と呼ばれる当時としては新しい様式で造り替えられたが、出来栄の良さと徳川家康の「東照大権現」という神号から「権現造」と呼ばれるようになり、神社建築様式として各地に広まるきっかけになった。

土木

西嶋 八兵衛

Hachibe nishizima

「一五九六年～一六八〇年」

城として日本最大級の
敷地面積を誇った
「大坂城」再建に携わる



藤堂高虎の右腕となり数々の築城に携わった技術者

西嶋八兵衛は、1596（慶長元）年、現在の静岡県浜松に生まれた。藤堂藩に仕えていた父（九兵衛）が、浜松に宿泊していた藤堂高虎のもとに17歳の八兵衛を連れて挨拶に行ったところ、八兵衛の利発さが高虎の目にとまり、近習役（秘書）として仕えることになる。築城の名手である高虎の指導のもと土木の専門的な技術を身につけていった八兵衛は、京都二条城増築で工事設計図を作成するなど、その名は他藩にも知られるようになる。1620（元和6）年、徳川2代将軍秀忠により、大坂夏の陣で廃墟同然となった大坂城の再築工事が行われた。64家の諸大名が幕府の命を受け、担当区域の工事をした。普請総奉行に高虎が選ばれ、八兵衛は工事見積を担当。諸大名の工費の管理、調整を行っていた。その才能を見込まれた八兵衛は、1625（寛永2）年、生駒藩に客臣として招かれ、築城によって身につけた土木技術を活かし、満濃池をはじめとする90余りのため池を改修、造営。築城から治水事業までこなす優れた土木技術者であった。